

第1回新しい学校づくり基本方針検討委員会 会議録

○日時 2025年11月6日（木）15:00～16:30

○場所 須坂市役所第3委員会室

○出席者 委員6人、事務局5人

1 開 会

2 あいさつ

3 委員会の目的と委員について

事務局：説明

4 委員長・副委員長の選出

5 議 事

事務局：説明

(1) 「須坂学園構想基本方針（案）」及び「須坂市の小中一貫教育」の説明会等の開催状況について

(2) 市民団体等からの署名等について

①豊丘小学校6年生保護者有志

②豊丘小学校の統廃合をめぐって年度内決定の見直しを求める請願

③「須坂学園構想」の決定先送りについて要望署名

④地域の小学校なくなる!「須坂学園構想基本方針(案)」の年度内決定の見直しを求める署名（市民の会）

(3) 基本方針の策定スケジュールについて

(4) 学園開校準備委員会の組織（案）について

(5) 意見交換

(説明会等の状況)

委員：

●須坂小学校と豊丘小学校が一緒になる第一学園の提案について、地元では意見が分かれている。提案を「良い」とする意見と、これまでの東3校の枠組みから外れることを「やめてほしい」とする意見が出ている。

●豊丘小学校が須坂小学校ではなくて、高甫小学校や仁礼小学校と同じ第一学園を選んだ場合、豊丘小学校が、いつ第一学園に入るのか。須坂小学校であれば準備でき次第、須坂小学校へ入る。第一学園だとすると、第一学園の開校時か、または開校前に高甫小学校と一緒になるのかが課題。

委員：

- 先日、東中学校 PTA と市教委の意見交換会に参加した。それほど多くの方が参加していない中で、比較的豊丘の保護者の参加が多かった印象がある。
- 豊丘の保護者の中で、特に中学3年生の保護者は、東3校という枠組みへのこだわりを強く持っている様子がうかがえた。
- 請願では豊丘小学校を残して欲しいという声もあるようだが、一方で保護者との意見交換会の中で保護者からは、もっと早く人数を大きくしてもらえた有難かったという意見もあった。
- 学区が変わることへの抵抗感はあるものの、学園構想で人数が多くなるということは前向きに捉えている保護者も多い。
- 保護者は第一学園の施設分離型（1～4学年、5学年～中学3学年）に対して不安を感じている。
- 中学校側から見ると、教員数が減り、専門的な教科を教えられる職員が限られているという現状がある。来年度のクラスも減少する可能性がある中で、例えば英語検定をやりたくても、英語の先生が一人しかいない状況では、そういう機会を十分に提供できない。
- 第一学園の施設分離型で、5・6年生から中学生と同じ校舎で学ぶことで、早期に英語検定の対策（4級や5級）などが可能になるなど、学習面での親和性が非常に大きい。そういうことも保護者に説明していくことも大事だと思う。

事務局：

- 4・5制の施設分離型では、教員が車で移動せずに教科担任制を導入することが可能。
- 小学校4～6年生の学力調査の結果を見ても、専門の先生に教えてもらうことで、授業の面白さを味わいながら学力を向上させたい。

(準備推進委員会における有識者の活用)

委員：

- 学園開校準備推進委員会の部会について、有識者やアドバイザーの方を入れる予定はあるか。特に教育課程の部会で、有識者からアドバイスがあることで、保護者への説明においても意見の幅広さを示す上で重要である。

事務局：

- グローバルスタディ、ふるさと学習、教育課程、インクルーシブ教育などの部会において、大学の先生やそれに準ずる有識者に入ってもらい、一緒に考えていただくことを検討している。

(教職員への情報共有)

委員：

- 中学校で1学年4学級ある学校と1学年1学級しかない学校では、そこにいる教職員の危機感も大分違っている。教職員が学園構想について真剣に考え、主体となって行動するためには、節目の機会に市教委からの説明や課題共有の場を設けることが必要であり、それにより「自分ごと」になっていく。

委員

- 教育委員会の説明を聞くだけでなく、学校の中で教職員同士が小グループを組んで話し合う場を設けたところ、施設分離型に対する抵抗感などが解消され、新たな発見や理解が進んだということがあった。

委員：

- 教職員は少子化を肯定的に捉え、それを前提にこれからの教育環境をどうしたらよいかと考えていると感じている。その時に必要な情報を共有する機会が多くあることで、その話が充実してくる。
- 4月1日に市教委が教職員向けの説明会を開催したことはとても基盤として大事なことだった。不安はつきものだが、情報を定期的に共有することで、その中で肯定的な良い発想が生まれてくると思う。

委員：

- 学校で教職員同士が話し合う機会があれば、市教委も参加して、お互い情報交換をしたい。

(策定スケジュールについて)

事務局：

- 当初、今年度中に基本方針を策定する予定であったが、話し合いや説明の時間が必要なため、半年間延期したいと考えている。
- 延期のメリットは保護者や地域との合意形成の時間を確保できる。デメリットは、豊丘小学校などの児童が現在の環境で学校生活を送る期間が伸びる。

委員：

- 豊丘小学校の中にも須坂小学校への統合を希望する方、一方でこれまでの東3校のまとまりを希望する方がいる。
- 保護者にどこまで選択の余地を提案できるのか。第一学園か第二学園にどちらかに集結するのか。または、第一学園か第二学園の選択が可能になるのか。その可能性があるであれば、この期間に丁寧な説明を重ねていく必要がある。

委員：

- 豊丘小学校の保護者の意見が2つに分かれているが、そこに折り合いをつけるのは難しいので、第一学園か第二学園かどちらか選んでもらうようなことも検討する必要がある。

委員：

- 学園構想自体には賛成の声があるが、通学区域の見直しに不安がある。
- 児童生徒数の減少が喫緊の課題となっている学校の教職員からすれば、第一学園なのか第二学園なのか見通しを早く持てると子ども保護者も安心すると思う。

委員：

- 期間延長について、特に豊丘小学校が第一学園になるのか第二学園になるのかという選択肢に対する、保護者や地域の方と行政側の情報量の差を埋めるためにも、メリット・デメリットを伝えた上で、丁寧に説明する期間が必要だと考えている。

6 その他

7 閉会